

図書コーナーご案内



図書コーナーは、男女共同参画社会実現のために、情報の力でエンパワーメントすることを目的としたジェンダーに関する専門図書室です。

資料の貸し出しのほか、調べ物やさまざまな疑問に対して、参考となる資料の紹介や情報の提供を行っています。どうぞお気軽にご相談ください。

◆場 所 静岡市女性会館1F

◆利用時間 (平日)9:00~19:00
(土日祝)9:00~17:00

◆休 館 日 ・第2・4月曜日
・年末年始(12/28~1/4)

◆貸出点数 ・図書、雑誌、CD、カセット
あわせて10点まで

◆貸出期間 2週間

◆貸出方法 貸出には図書コーナー専用の貸出カードが必要です。住所・氏名・生年月日が確認できるもの(免許証、健康保険証など)をお持ちくださいればその場で発行します。



静岡市女性会館(アイセル21)

所在地 静岡市葵区東草深町3-18

開館時間 9:00~21:30

休 館 日 第2・4月曜日、年末年始(12/28~1/4)

T E L 054-248-7330

F A X 054-246-7833

E-mail mail@aicel21.jp

H P <https://aicel21.jp>

相談無料
秘密厳守

女性のための総合相談

ひとりで悩まないで、まずはお電話を

結婚・離婚、恋愛、夫婦のこと、親との関係、子どもとの関係
DV、暴力・虐待、セクハラ、職場の人間関係、経済的困窮
妊娠・出産、子育て、これから生き方など…

受付時間	火	水	木	金	土
9:00~13:00	○	○	/	○	10:00~13:00
14:00~17:00	○	○	14:00~20:00	○	/

電話相談の事前予約は不要です。まずはお電話ください。

女性会館 相談専用ダイヤル **054-248-1234**

女性相談員による面接相談
(予約制/1回 50分) 電話相談のあと、ご希望や必要に応じてご利用いただけます

女性弁護士による法律相談
(予約制/1回 30分) 第1土曜日・第3木曜日 14:00~17:00

弁護士への相談がスムーズにできるよう、電話相談で受け付けています。

予約制
面接
事前申込

40代以下の女性のための 就職・転職・キャリア相談

まずはお電話またはHPにてご予約ください。
事前に相談シートをお送りします。

申込受付日時

同月の1日(1月のみ5日)12:30より

面 談 日

毎月第3水・金・土曜日
①10:30~11:20 ②13:30~14:20(1回50分)

女性会館事務室 **054-248-7330**

アイセル21 にじいろ電話相談

セクシュアリティや性別違和で悩んでいる方、
または周囲の方からのお話を伺います。

- 恋人やパートナーのこと
- 誰にも話せなかったこと
- これまでの自分・これからの自分のこと
- 学校、職場でのこと
- 家族のことなど

にじいろ
054-248-2216
毎月第2土曜日 14:00~17:00



静岡市女性会館 情報誌 WAVE

発行年月: 2022年11月

編集・発行: 静岡市女性会館

指定管理者 NPO法人男女共同参画フォーラムしづおか



静岡市女性会館は講座、情報、相談などの事業を通してSDGsのゴール5「ジェンダー平等の実現」を目指しています。「ここから、はじまる ここで、つながる」を合言葉に、女性会館という「場」を最大限に生かし、平常時も災害時も地域のネットワークの拠点として会館運営に取り組みます。



静岡市女性会館 情報誌

WAVE

ここから、はじまる ここで、つながる

vol. 96・97
vol.
合併号
2022.11

30th
記念号



アイセル女性カレッジを振り返る

message

期待しています！これからの女性会館

最新生理グッズに触れる

10代×生理 Z世代のための生理フェス開催

生理の貧困は

「個人で対処できない社会全体のデザインの問題」

講座終了レポート

あなたが選ぶジェンダー川柳 2022

探究学習で高校生が女性会館とつながる

AICEL TOPICS

講座のご案内



アイセル女性カレッジを振り返る



静岡市女性会館は、1992年6月17日、中央公民館(現・葵生涯学習センター)との複合施設「アイセル21」として開館し、今年30周年を迎えました。本格的な人材育成を目指した「アイセル女性カレッジ」は開館の3年後からスタートし、現在も続く女性会館の主要事業で、これまでに延べ354人の修了生を輩出しました。開館から15年後、女性会館の指定管理者となつたNPO法人男女共同参画フォーラムしづおかは、女性カレッジの第1期～6期の修了生有志8人が中心となって設立した団体です。30周年にちなんで女性カレッジの歩みを振り返ります。

第1期～第6期(1995～2004年)

静岡市直営時代

1995年10月、旧静岡市の女性行動計画に掲げられた「社会や政治への参画を進めるための学習機会の提供と人材育成」を事業化した「アイセル女性カレッジ(以下、カレッジ)」が誕生しました。カレッジは市長を学長とし、女性問題や女性施策を含む市政について学ぶ内容でした。コーディネーターを務めた居城舜子さん(当時常葉学園短期大学教授)からは「女性には高いハードルを掲げて訓練する場が必要。論点を外さず時間内にきちんと



話す。出された課題を期日までに必ず提出する。クリアすると女性は一段と進歩する。講座の後半は各自が自分の問題意識をもとにテーマを決めて、レポート作成に取り組むことを提案され、2か年度に渡る全24回のカリキュラムが組まれました。

第1期には36人の応募があり、レポート提出をした20人が修了し、修了生の中から審議会委員も誕生しました。この方向性は第4期まで続きましたが、第2期以降定員割れしていることが課題でした。第5期からは「主体的に活動できる人材」の育成を目指し、修了生の中から企画委員を募って、市の担当者と企画委員が協働し

て企画を練り上げ、実施することになりました。第5期は「女性労働」、第6期は「メディア・リテラシー」とテーマを絞り、個人のレポート作成の代わりに、第5期は全員で調査研究に取り組み、第6期はポスター発表という形で成果を発表しました。

第7期～第10期 (2005～2013年)

2005年から、カレッジを含む講座の一部と図書の運営業務が民間の団体に委託されることとなりました。のちに指定管理者となるNPO法人男女共同参画フォーラムしづおかが受託者となり、第7期以降、同団体がカレッジを企画運営しています。

同年10月に開講した第7期は原点に戻り、女性が踏み出すはじめの一歩を応援する講座として募集したところ、定員30人のと

ころ58人の応募があり、抽選により45人の受講者を受け入れました。前半は座学、後半はグループワークを中心としたカリキュラムを組んで、自分たちの経験から受講者に寄り添った運営を心掛けました。修了後も活動を続けるグループが複数生まれました。

指定管理者として任された第8期は「キャリアデザイン」をテーマとし、女性の再就職を意識した内容にしました。後半のグループワークに入る段階で脱落者が一定数いたことから、第9期は平日開催とし、「社会とリンク 初めは小さな一歩から」をテーマに、社会の課題に目が向けられるように前半からワークを取り入れました。当時の松下光恵館長は「女性が成長する

第11期～第16期 (2014～2019年)

働く女性が増えたことから、第11期からは「働く」をテーマにした人材育成講座

に転換しました。回数も減らし、単年度で修了するようにしました。2014年度の第11期は、「育休キャリアカレッジ」を開講。当時、育休取得者は増えたものの職場復帰しないまま退職してしまう女性も多くい



アイセル女性カレッジの歩み

期	開講年月	テーマ	回数	対象者	修了生
1期	1995(H7)年 9月～1997(H9)年3月	地域リーダーの育成	24回	55歳以下の女性	20人
2期	1997(H9)年 6月～翌年3月	地域リーダーの育成	20回	60歳未満の女性	10人
3期	1998(H10)年 7月～翌年2月	あらゆる分野の女性リーダーの支援	24回	60歳未満の女性	13人
4期	1999(H11)年 10月～翌年10月	あらゆる分野の女性リーダーの支援	30回	女性	20人
5期	2001(H13)年 10月～翌年10月	21世紀の女性労働	25回	女性(男性も可)	15人
6期	2003(H15)年 10月～翌年10月	女性とメディア	20回	女性(男性も可)	24人 (内男性2人)
7期	2005(H17)年 10月～翌年9月	レッツチャレンジ～女性の新しい働き方を考える～	24回	成人女性	26人
8期	2007(H19)年 10月～翌年9月	キラッと輝き続けるためのキャリアデザイン	24回	45歳以下の女性	16人
9期	2009(H21)年 10月～翌年10月	社会とリンク！～はじめは小さな「一歩」から～	30回	成人女性	25人
リカレント	2011(H23)年 9月～11月	男女共同参画の視点で支え合い、活気ある地域社会の担い手になるために	6回	第1～9期の修了生	(19人)
10期	2012(H24)年 2月～翌年9月	社会を知る 私が変わる 未来が変わる	24回	成人女性	15人
11期	2014(H26)年 9月～翌年3月	育休ママのキャリアカレッジ	10回	育休中の女性	19人
12期	2015(H27)年 9月～翌年2月	私もしく働く！キャリアデザイン講座	8回	女性	18人
13期	2016(H28)年 7月～翌年2月	戦略的キャリア形成プロジェクト～私の課題を解決する9日間～	10回	40代以下の働いている女性	29人
14期	2017(H29)年 7月～翌年2月	戦略的キャリア形成プロジェクト2～視野とネットワークを広げる10日間～	11回	40代以下の働いている女性	28人
15期	2018(H30)年 7月～翌年2月	戦略的キャリア形成プロジェクト3～多様な視点、対話力を獲得する10日間～	10回	40代以下の働いている女性	24人
16期	2019(R元)年 7月～翌年2月	組織の中で働き続けるためのキャリア戦略	8回	40代以下の働いている女性	18人
17期	2020(R2)年 10月～翌年2月	50代から始めるセカンドキャリアデザイン	6回+選択1回	45歳以上の女性	19人
18期	2021(R3)年 11月～翌年3月	働く女性のセカンドキャリアデザイン～同世代と共に想い、私の未来を考える～	7回	40代、50代の働いている女性	15人
19期	2022(R4)年 9月～翌年3月	もうひと花咲かせるセカンドキャリアデザイン～私の可能性を広げる7日間～	7回+実習1回	45歳以上の女性	開講中

エピソード等も掲載した「育休復帰ハンドブック」を作成しました。第12期は同時並行して行っていた文部科学省委託事業「観光分野で活躍する女性の人材育成講座」と相互に受講できるようにしたため、再就職を視野に入れている女性を対象としました。



2015年8月「女性活躍推進推進法」の成立が追い風となって、経済界の協力も得やすく

第17期～ (2020年～)

人生100年時代、「働く」や「キャリア」を幅広い意味でとらえ、女性も人生の後半戦を見据えたキャリアプランを考える場を提供したいと企画したのが「セカンドキャリアデザイン」です。第17期からはコロナ禍でオンライン講座になったり、日程変更を余儀なくされたりして、思うように交

なりました。第13期からは管理職になる前の基幹社員育成のための「戦略的キャリア形成プロジェクト」を実施。静岡経済同友会の協力を得て、傘下事業所からも社員教育の一環として受講者を推薦してもらったり結果、多くの希望者があり、ニーズがあることを確信しました。修了式には、個性や能力を発揮できる社会を実現するために「私のふみだす一歩」を宣言しました。13期生の様子から14期以降は課題別にグループをつくり、最終回にプレゼンテーションを行うことにしました。グ

ループワークがあると交流が密になり、グループを超えてつながりもできました。

第15期も同様に行いましたが、男女共同参画分野以外でも同様のキャリア支援の講座が開かれるようになりました、受講希望者が減ってきたことから、第16期は「組織の中で働き続けるためのキャリア戦略」とテーマを少し変えて実施しました。この間の修了生にはメンターとして女性会館の事業に協力してもらうことも多く、心強い応援団になっています。

流が図れなかったのが残念です。そのような中でも、17期修了生を中心に自主活動グループが作られています。

この「セカンドキャリアデザイン」シリーズには、かつてのカレッジ修了生の参加が多いのも特徴です。その彼女たちが次々と口にするのは当時のグループワークや課題の大変さ。「もう2度とあのワークはやりたくないけれど、次のことを考えるのにカレッジに参加しようと思った」「人

生の岐路に立った時にカレッジが思い浮かぶ」など、ワークによって交流も生まれ、力がついたことも感じているようです。当時は自分自身の個人の課題に向き合っていた人が、年月を経て社会の課題に目を向けて動き出そうと再び受講しています。女性会館のキャッチフレーズは「ここから、はじまる ここで、つながる」です。これからも、カレッジを通して、『場』と『環境』と『機会』を提供し続けたいと思います。

男性にも人生の節目で立ち止まる機会が必要

静岡県立大学 教授 犬塚協太さん



1991年静岡県立大学国際関係学部赴任。専門は家族社会学、ジェンダー社会学、歴史社会学。現在、国立女性教育会館外部評議会委員長や静岡市女性活躍推進協議会委員長等県内外の公職多数。

もっと楽に、もっと楽しくなる世界

ここ数年、女性会館で行っている男性限定の「スイツづくり」や「コーヒーの楽しみ方」の講座の中で、ジェンダーの話をしています。男女共同参画は女性の問題と思われるがちですが、実は男性にとって、もっと今より生き方が楽になる、楽しくなる世界だと、ポジティブなイメージが持てるように伝えるようにしています。男性も自分ごとにできるようなアプローチが必要です。

世代によって変化するジェンダー観

市民意識調査の結果からわかるように、30代以下の男性は、仕事優先の生活は望んでおらず、ジェンダーに捉われることに抵抗がある世代。「今の働き方、しんどくないですか」と、仕事以外のいろいろな選択肢や可能性があることを提示し、起業や転職を含めた自分の生き方を見直すような講座があればいいですね。逆に、一番ジェンダーの責任を背負っているのが40代、50代。仕事の負荷が大きい世代には、人生の棚卸をし、

後半に向け、仕事以外の人間関係が豊かになるよう背中を押す講座が必要。ただ、新しいことにチャレンジするなら、今までのジェンダーの繰り返しではダメだと伝えることも大切です。

シニア世代は「関係貧困」が問題 階層格差は男性にも

高齢になっても働き続ける男性が増えました。階層格差も見られる中、特にシングルの男性は、孤立に直結しやすく、孤独になりやすい。また、60歳以上はジェンダー役割が抜けきらず、「関係貧困」といわれる世代。料理講座などをきっかけに、実践することが男女共同参画なんだと後から理解するでもよし。趣味の仲間を作る、ぐちをこぼせる、本音を明かせる、そんな関係性をつくれたら老後は明るいですね。人間は弱い、不出来、不十分な中で、互いに助け合い支え合っていくものと気づいてほしいですね。

気軽に利用できる施設だからこそ相談の敷居も低くなる

弁護士 葦名ゆきさん



2003年弁護士登録。過疎地に赴任する若手弁護士を養成する事務所で修行を積み、相馬ひまわり基金法律事務所初代所長として赴任後、2008年に静岡に転入。2022年度静岡市男女共同参画審議会委員。

女性が置かれた状況はさほど変わっていない

女性会館の法律相談に初めて携わったのは14年前ですが、離婚、解雇、交通事故など、人生の中で起きてほしくないアクシデントに遭った時、男性に比べ、女性の方が一気に窮地に陥りやすいという状況は、今もほとんど変わりがありません。これには、女性の社会的地位や経済的基盤、家族の中での立場などが深く影響しており、女性活躍のスローガンや数値目標が虚しく感じられます。表面的な配慮よりも、スタートラインにつけるような支援や、窮状の原因を分析した上で根本的な対策が不可欠だと思います。

様々なサービス、総合調整機能があるのがいいところ

被災地支援の場では、法律相談の旗を掲げても誰も来ませんが、避難所を歩き回って被災者にお声掛けし、世間話をしていると、ボロボロと法律問題が出てくることがあります。女性会館でも、役立つ知識を提供する無料講座や本の貸

出等、気軽に利用できる施設だからこそ相談の敷居も低くなる

女性会館と法律家の連携に期待

責任のある仕事に就き、活き活きと活躍する女性の姿が目に留まる等、良い変化も起きていることも感じます。弁護士も女性が増え*、特に子育て中の女性弁護士が増えたことによって、夕方6時からの委員会が昼間の時間帯に変更される等の変化がもたらされるようになりました。数は力だと痛感します。法律相談を担当していても、女性会館のことをあまり知らない女性弁護士も多いと思うので、もっと連携できるといいですね。

*静岡県弁護士会に所属する女性比率は、2022年度17.2% 1990年度4.9%（『弁護士白書』より）

人と人が出会う「場」を大切にしながら ジェンダー課題に挑む

(特非)全国女性会館協議会 代表理事 納米恵美子さん



1991年横浜市男女共同参画推進協会入職。男女共同参画センター横浜館長、協会事業本部長、協会理事を歴任し、現在は川崎市男女共同参画センター長。内閣府男女共同参画会議議員である。

公共施設の見直し時にさしかかって

静岡市女性会館が30年前にオープンしたように、全国各地の男女センター（女性センター、男女共同参画センター）の多くが30～40年前につくられ、今、大規模改修や設備更新時期を迎えています。人口減少、少子高齢化により自治体の義務的経費が増大する中、全国で公共施設の見直しが図られていて、男女センターの統廃合の問題も耳に入っています。ジェンダー平等が進まないから少子化が止まらないという悪循環が原因だと思いますが、そのことにどれだけの人が気づいているでしょうか。

人々が出会える「場」があることが大事

コロナ禍で再確認したように、人々がリアルに出会える場は絶対必要です。静岡市女性会館は、そこで学んだ人たちが指定管理者になりました。人と人が出会う場、女性会館がなかったら会うことはなかった人たちが、今こうして事業を行なっているのです。

行い、施設を管理し、組織を運営しているわけですから、それはすごいことです。女性会館の建設を求めて運動をしてきた世代の人から上手にバトンを受け継いだと思います。

課題解決と意識への働きかけを あらゆるターゲット層にむけて

男女センターでは、具体的な課題の解決に役立つプログラムには人は集まりますが、難しいのは価値観や意識への働きかけです。なぜなら、誰も他人から説教されたくないし、価値観を押し付けられたくないから。でも、ジェンダー平等が実現していないからモヤモヤするわけで、そのモヤモヤを言葉にして、こういうことが必要なんだということを社会に発信していくことも男女センターの役割のひとつだと思います。その都度出てくる課題に対応しながら、SOGI（性的指向・性自認）や世代などターゲットの枠を広げていくこともこれからは求められると思います。

学校では勉強しないことを 学ぶ良さ、もっと知ってほしい

常葉大学附属常葉橘高校3年 吉田吏歩さん



清水区在住。思い立ったらすぐ行動するタイプ。将来は、LGBTQも個性と捉え、それが押しつぶされない環境づくりに貢献したく、自分にできることを模索中。少林寺拳法部で全国大会にも出場。

「性の多様性」に興味を持つて

中学生の時、BL（ボーイズラブ）漫画が好きで読んでいたら、友だちから「気持ち悪い」と言われました。「どうしてそう捉えるのだろうか」と思ったことがきっかけで、「性の多様性」について考えるようになりました。昨年参加した「高校生まちづくりスクール（通称：まちスク）」で「性の多様性」をテーマに活動していたところ、市の職員から女性会館主催の「卒論・探究学習発表会」で発表してみないかと言われて、初めて女性会館のことを知りました。

インターンシップで学んだ厳しさと居心地の良さ

「まちスク」でいろいろなことを学びましたが、実際の社会の中でLGBTQの人たちがどういう見られ方をされているのか知りたくなり、今年8月、女性会館のインターンシップに応募しました。実際に参加してみて、挨拶の仕方や敬語の使い方も全く知らない自分に気づけました。

きました。でも、担当する講座の話し合いの中では、悩みも話せたし、自分の意見を言っても否定されることなくて、すごく居心地がよかったです。女性会館は学校では勉強しないことを学ぶ場だと思います。

高校生が気軽に安心して利用できる場所がほしい

最初は私も女性会館の場所も知らなかったし、固いイメージがあって「高校生が行っていいのかな」と思っていました。今年、学校に女性会館がデートDV防止の出前講座に来てくれましたが、そういう時に女性会館のことをもっと説明してもらえたらしいと思います。「高校生も利用しているよ」と言ってもらえると行きやすいです。同級生の中には経済的な理由で塾に行けない子や、親との関係に悩んで、家に居場所がない子もいて、勉強する場所や相談できるところを求めています。高校生が気軽に立ち寄れる場所を提供してもらえるとうれしいです。